

Sun™ Control Station 2.2

電源管理 (LOM) モジュール

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-1432-10
2004 年 12 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Java, JavaServer Pages, JSP, JumpStart, Netra, Sun Cobalt, Sun Cobalt RaQ, Sun Cobalt CacheRaQ, Sun Cobalt Qube, Sun Fire, および Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Netscape および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun™ Control Station 2.2 Lights Out Management Module
Part No: 819-0445-10
Revision A



目次

Linux カーネルソース RPM の必要条件	2
ネットワークインタフェース	2
「Lights Out Management」画面	2
構成	3
LOM モジュール用の SP の構成	3
Sun Fire V20z システムおよび V40z システムの SP の事前構成	3
Sun Fire V20z システムおよび V40z システムにおける LOM の手動構成	4
Sun LX50 システム、Sun Fire V60x システム、および V65x システムにおける LOM の自動構成	6
Sun LX50 システム、Sun Fire V60x システム、および V65x システムの手動構成	6
電源	7
電源機能に関する既知の問題	7
ホストへの電源投入	8
ホストの電源のオフ	8
ホストのリセット	9
ホストの認識	9
センサー/SEL	10
センサーデータと SEL の表示	10
SEL のクリア	13

SEL の表示の更新	14
ホスト情報の表示の更新	14
Health Monitoring モジュール内のセンサーデータ	15
設定	15
Intelligent Platform Management Interface (IPMI) の概要	16

電源管理 (LOM) モジュール

Sun™ Control Station ソフトウェアの電源管理 (LOM) コントロールモジュールは、Intelligent Platform Management Interface (IPMI) バージョン 1.5 に準拠するホストに対する遠隔管理と遠隔監視の機能を提供します。本マニュアルでは、LOM コントロールモジュールを通じて利用可能な機能とサービスについて説明します。

LOM モジュールは、IPMI v1.5 で利用可能な機能を実現します。

このモジュールで可能な作業は、次のとおりです。

- ホスト電源をオン/オフする。
- ハードウェアリセットを実行する。
- ホスト上の、認識および位置確認用の LED を点灯させる。
- ホストでセンサーデータとシステムイベントログ (SEL) を表示する。
- 最新のセンサーデータと SEL を取得する。

センサーからは、次のような環境情報と状態情報が返されます。

- ボード全体の状態
- ボード電圧
- ボード温度 (°C)
- フロントパネル周囲温度 (°C)
- プロセッサ温度 (°C)
- ファンの回転速度 (rpm)

注 – 本マニュアルでは、読者が Sun Control Station ソフトウェアの基本操作を理解していると想定して説明します。状態アイコン、選択ウィンドウ、スケジューラ、「タスクの進捗状況」ダイアログなど、Sun Control Station の基本的な機能の概要については、『Sun Control Station 2.2 管理者マニュアル』を参照してください。

Linux カーネルソース RPM の必要条件

LOM コントロールモジュールを動作させるためには、LOM 機能を使用する管理対象ホスト上に Linux カーネルソース RPM をインストールする必要があります。

LOM コントロールモジュールには、その管理対象ホストに LOM モジュールをインストールしたときに自動的にコンパイルされるデバイスドライバが含まれます。Linux カーネルソース RPM は、このデバイスドライバをコンパイルするために必要となります。

その管理対象ホスト上に Sun Linux ディストリビューションが使われている場合、Linux カーネルソース RPM は必要ありません。

ネットワークインタフェース

LOM コントロールモジュールは、管理対象ホスト上で、組み込みのネットワークインタフェース (eth0 または eth1) を通じて動作できます。しかし、管理対象ホスト上で両方の組み込みネットワークインタフェースがアクティブである場合は、管理対象ホストはデフォルトで eth0 を設定します。

「Lights Out Management」画面

「Lights Out Management」メニュー項目をクリックすると、サブメニュー項目により、ホストサービスプロセッサを設定して LOM を使用し、電源のオン/オフを操作し、管理対象ホストでセンサーと SEL データを表示し、さらに管理対象ホストのサービスプロセッサにグローバル設定をプッシュできるように設定できます。

次のようなサブメニュー項目があります。

- 「構成」 (3 ページの「構成」を参照)
- 「電源」 (7 ページの「電源」を参照)
- 「センサー/SEL」 (10 ページの「センサー/SEL」を参照)
- 「設定」 (15 ページの「設定」を参照)

構成

LOM モジュール用の SP の構成

一部の管理対象ホストでは、LOM モジュールソフトウェアによってホストを適切に管理するには、サービスプロセッサ (SP) を事前構成するか、またはインストール後に手動で構成する必要があります。

Sun Fire™ V60x、Sun Fire V65x、および Sun LX50 の各プラットフォームでは、インストール前の設定は不要です。

Sun Fire V20z システムおよび Sun Fire V40z システムのサービスプロセッサ (SP) は、事前構成して最新の BIOS および SP ファームウェアをインストールする必要があります。詳細は、3 ページの「Sun Fire V20z システムおよび V40z システムの SP の事前構成」を参照してください。

ホストが Sun Fire LX50、Sun Fire V60x、または Sun Fire V65x の場合は、LOM モジュールのインストールの一部として自動構成を実行してください。詳細は、6 ページの「Sun LX50 システム、Sun Fire V60x システム、および V65x システムにおける LOM の自動構成」を参照してください。

ホストが Sun Fire V20z システムまたは V40z システムの場合は、手動で LOM を構成する必要があります。詳細は、4 ページの「Sun Fire V20z システムおよび V40z システムにおける LOM の手動構成」を参照してください。

Sun Fire V60x、Sun Fire V65x、および Sun LX50 の各ファミリのマシンでは、リモートからの電源投入が機能しない場合があります。この問題が発生した場合は、[設定] 画面で無償 Arp 機能を有効にします。詳細については、15 ページの「設定」を参照してください。

Sun Fire V20z システムおよび V40z システムの SP の事前構成

1. 静的 IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトのゲートウェイ IP アドレスを使用して、LCD フロントパネルからサービスプロセッサ (SP) を構成します。

詳細については、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバインストールガイド』の「SP のネットワーク設定の定義」の節を参照してください。

注 – SP のホストとは異なる IP アドレスを使用する必要があります。IP アドレスは静的でなければなりません。LOM では DHCP が提供する IP アドレスをサポートしていません。

2. SP の最初の管理者アカウントを作成します。

これは、次のステップで説明するように、SP にログインして IPMI コマンドを実行するために必要になります。

詳細については、『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバインストールガイド』の「初期マネージャアカウントの作成」の節を参照してください。

3. (省略可能) SP のサーバー管理およびプラットフォームソフトウェアを設定します。

『Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバインストールガイド』の「サーバの管理およびプラットフォームソフトウェア」の節を参照してください。

4. 使用中のマシンで BIOS の更新が必要かどうかを確認します。

ssh を使用して、手順 2 で定義した最初の管理者アカウントで SP にログインします。ログインする際には、次のように表示されます。

```
Sun Microsystems
IPMI v1.5 Service Processor
Version: V2.1.0.16
```

表示されている「Version」が V2.0.x.x である場合は、BIOS と SP を必ず更新してください。

5. (必要に応じて) BIOS のインストールやその他の使用方法については、次の Web サイトを参照してください。

■ Sun Fire V20z の場合:

<http://www.sun.com/servers/entry/v20z/downloads.html>

■ Sun Fire V40z の場合:

<http://www.sun.com/servers/entry/v40z/downloads.html>

Sun Fire V20z システムおよび V40z システムにおける LOM の手動構成

1. Sun Control Station のインタフェースで、「LOM」→「構成」を選択します。

新しく追加されたホストが表示されます。Sun Fire V20z システムまたは V40z システムでは、LOM の構成値は N になります。

2. ホストを選択して「手動設定」をクリックします。

「LOM のノード設定を構成」画面が表示されます (図 1 を参照)。

図 1 「LOM のノード設定を構成」画面

3. IP 構成情報を入力します。

- BMC の「IP アドレス」に表示される IP アドレスは、ホストのアドレスです。この IP アドレスをサービスプロセッサの IP アドレスに変更します。

注 – BMC (基板管理コントローラ) はサービスプロセッサ (SP) と同じです。このマニュアルでは SP と記載していますが、Sun Control Station のインタフェースでは一部が BMC になっている場合があります。

- BMC のネットマスクのテキスト入力ボックスに、サービスプロセッサの構成に使用したサブネットマスクを入力します。
- BMC のデフォルトゲートウェイのテキスト入力ボックスに、サービスプロセッサの構成に使用したデフォルトのゲートウェイ IP アドレスを入力します。
- チャンネルで使用する値が 1 に設定されていることを確認します。

注 – Sun Fire V20z または Sun Fire V40z 以外のマシンで LOM を手動で構成する場合は、表 1 を参照してチャンネルの正しい値を確認してください。

- 「パスワード」や「確認」フィールドで、グローバルまたはデフォルトのパスワードの代わりに、マシン専用の LOM モジュールで使用するローカルパスワードを設定することもできます。グローバルパスワードの設定の詳細については、15 ページの「設定」を参照してください。
- 適切な値を入力したら、「保存」をクリックします。

このコマンドにより、まず SP 上のこれらの値のクリアが試みられ、次に必要な値に設定されます。コマンドの完了まで数分かかる場合があります。

最終的に、「構成済み LOM」の値が Y に設定されます。

上記のステップをすべて実行した後で LOM が機能しない場合 (LOM から管理対象ホストに対してコマンドを実行できない場合) は、『Sun Fire V20z and Sun Fire V40z Servers Server Management Guide』の「IPMI Troubleshooting」の節を参照するか、サンのサービス担当者にご連絡ください。

Sun LX50 システム、Sun Fire V60x システム、および V65x システムにおける LOM の自動構成

Sun LX50、Sun Fire V60x、および V65x の各ファミリのマシンで LOM を構成するには、以下の手順を Sun Control Station のインタフェースから実行します。

- 1. 「LOM」→「構成」を選択します。
- 2. 目的のホストを選択します。
- 3. 「自動設定」をクリックします。

このコマンドにより、まず SP 上のこれらの値のクリアが試みられ、次に必要な値に設定されます。コマンドの完了まで数分かかる場合があります。

Sun LX50 システム、Sun Fire V60x システム、および V65x システムの手動構成

LX50 システム、V60x システム、および V65x システムで LOM を設定する場合、通常は自動構成機能を使用します。ただし、これらのシステムの LOM を手動で構成する場合は (図 1 を参照)、いくつかの問題があります。

- 1. サービスプロセッサで使用される IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトのゲートウェイアドレスは、ホストマシンのものです。
- 2. 特定のハードウェア、使用する Ethernet インタフェース、および使用する Linux カーネルのバージョンによって、チャンネルの値を設定する必要があります。使用するチャンネルの設定については、表 1 を参照してください。

表 1 チャンネルの割り当て

ハードウェア	Linux カーネル	ネットワーク インタフェース	チャンネル
LX50	すべて	eth0	7
LX50	すべて	eth1	6
V60/5x	2.4	eth0	6
V60/5x	2.4	eth1	7

表 1 チャンネルの割り当て (続き)

ハードウェア	Linux カーネル	ネットワーク インタフェース	チャンネル
V60/5x	2.6	eth0	7
V60/5x	2.6	eth1	6
V20/40z	すべて	すべて	1

電源

「電源管理の電源メニュー」のサブメニュー項目により、1 つまたは複数のホストに対する電源管理を行うことができます。

「電源」サブメニュー項目をクリックすると、選択ウィンドウが表示され、グループと各グループ内の管理対象ホストが提示されます。選択ウィンドウの下に、次のボタンが表示されます (図 2 を参照)。

- 「電源オン」
- 「電源オフ」
- 「リセット」
- 「識別」



図 2 電源メニュー選択ウィンドウ

電源機能に関する既知の問題

LOM モジュールを通じて管理対象ホストに「電源オフ」コマンドを送信し、「電源オフ」コマンドの完了前に続けざまに「電源オン」コマンドを送信すると、その管理対象ホストは init 0 状態になることがあります。init 0 は、ホストは電源投入されているけれども、オペレーティングシステムがシャットダウンしている状態です。

この問題は、「電源オフ」コマンドを管理対象ホストに再送することで解決できます。

ホストへの電源投入

「電源オン」コマンドを使うと、ホストの電源をリモートから投入できます。

注 – ホストがすでに電源投入された状態の場合、このコマンドはホストに影響を及ぼしません。

1. 「電源管理」→「電源」を選択します。
選択ウィンドウが表示され、管理対象ホストの一覧が提示されます。
2. 1 つまたは複数のホストを強調表示するか、または「すべてを選択」をクリックして、一覧のすべてのホストを選択します。
3. 右下の「電源オン」をクリックします。
「タスクの進捗状況」ダイアログが表示されます。

ホストの電源のオフ

「電源オフ」コマンドを使うと、ホストの電源をリモートから遮断することができます。このコマンドでは、ホストの電源を遮断する前に、オペレーティングシステムのシャットダウンが試みられます。

注 – ホストの電源がすでにオフの状態の場合、このコマンドはホストに影響を及ぼしません。

1. 「電源管理」→「電源」を選択します。
選択ウィンドウが表示され、管理対象ホストの一覧が提示されます。
2. 1 つまたは複数のホストを強調表示するか、または「すべてを選択」をクリックして、一覧のすべてのホストを選択します。
3. 右下の「電源オフ」をクリックします。
「タスクの進捗状況」ダイアログが表示されます。

ホストのリセット

「リセット」コマンドは、ハードウェアをリセットします。ホストが正常に動作していれば、システムは適切にシャットダウンし、再起動します。システムがハングアップして応答しない場合には、「リセット」コマンドによってシステムが強制的にリセットされます。

注 – ホストの電源がすでにオフの状態の場合、このコマンドはホストに影響を及ぼしません。

1. 「電源管理」→「電源」を選択します。
選択ウィンドウが表示され、管理対象ホストの一覧が提示されます。
2. 1 つまたは複数のホストを強調表示するか、または「すべてを選択」をクリックして、一覧のすべてのホストを選択します。
3. 右下の「リセット」をクリックします。
「タスクの進捗状況」ダイアログが表示されます。

ホストの認識

Sun LX50 サーバー、Sun Fire V60x サーバーや V65x サーバーなど、認識 LED を持つホストでは、「識別」コマンドにより LED がフロントパネルとバックパネルで点滅するため、装置ラック内でホストの位置を特定するのに役立ちます。

LED は 4 分間の点滅後、消灯します。

注 – ホストの電源がオフにされている場合や、システムがハングアップしている場合でも、このコマンドは LED を点滅させることができます。ホストのフロントパネルから LED を (点滅ではなく) 点灯させている場合には、このコマンドはホストに影響を及ぼしません。

1. 「電源管理」→「電源」を選択します。
選択ウィンドウが表示され、管理対象ホストの一覧が提示されます。
2. 1 つまたは複数のホストを強調表示するか、または「すべてを選択」をクリックして、一覧のすべてのホストを選択します。
3. 右下の「識別」をクリックします。
「タスクの進捗状況」ダイアログが表示されます。

センサー/SEL

「センサー/SEL」サブメニュー項目で、センサーの現在のデータやホスト上の SEL (System Event Log) の表示、データのリアルタイム更新、データの更新スケジュール設定ができます。

「センサー/SEL」サブメニュー項目をクリックすると、選択ウィンドウが表示され、グループと各グループ内のホストが提示されます。選択ウィンドウの下に、次のボタンが表示されます (図 3 を参照)。

- 「表示」
- 「ただちに更新」
- 「スケジュール」



図 3 センサー/SEL 選択ウィンドウ

センサー情報や SEL 情報を更新すると、管理対象ホストからすべての SEL が取得されます。完全な SEL は約 3000 レコードを保存することができます。更新された SEL 情報は、管理対象ホストから SEL 全体が取得されるまで表示されません。

SEL に含まれるエントリ数、あるいは SEL およびセンサーデータを取得するホスト数が多いほど、情報取得にかかる時間は長くなります。多数の管理対象ホストに関するセンサー情報と SEL 情報を更新するスケジュールを組む場合には、これらの要点を考慮する必要があります。

センサーデータと SEL の表示

ホストに関するセンサーデータの概要を表示できます。また、概要テーブルからセンサーデータの詳細テーブルの表示、SEL の参照、現在のデータを更新を行えます。このデータは、ホストの電源がオフの状態でも更新されます。

注 – 管理対象ホストから集められる LOM センサーデータの概要は、Health Monitoring モジュール内にも表示されます。15 ページの「Health Monitoring モジュール内のセンサーデータ」を参照してください。

1. 「電源管理」→「センサー/SEL」を選択します。
管理対象ホストのリストが表示されます。
2. 1 つまたは複数のホストを強調表示するか、または「すべてを選択」をクリックして、一覧のすべてのホストを選択します。
3. 「表示」ボタンをクリックします。
「センサー状態のサマリー」テーブルが表示されます (図 4 を参照)。



状態	IP アドレス	センサーの詳細	SEL の詳細
✓	129.158.19.84		

データの更新 戻る

図 4 「センサー状態のサマリー」テーブル

4. 右側の列では、次の操作が可能です。
 - センサーデータの詳細テーブルを表示する。
 - SEL からの詳細を表示する。
 - センサーデータを更新する (14 ページの「ホスト情報の表示の更新」を参照)。
5. 「センサーの詳細」アイコンをクリックすると、詳細なセンサーテーブルが表示されます。
ホストの種類に応じて、テーブルには異なるセンサーが表示されます (図 5 を参照)。
センサーデータを更新するには、「データの更新」をクリックします (14 ページの「ホスト情報の表示の更新」を参照)。

電源管理センサーの詳細

129.158.19.84

最終更新日時2004-12-28 18:23:56.0

センサー

状態	センサー名	センサーの値	コメント
	ACPI State	0x01	正常動作
	BMC Watchdog	0x00	正常動作
	Basbrd Mgmt Ctlr	Dynamic MC @ 10h	正常動作
	Baseboard -12V	-12.112 Volts	正常動作
	Baseboard 1.25V	1.274 Volts	正常動作
	Baseboard 1.2V	1.196 Volts	正常動作
	Baseboard 1.8V	1.743 Volts	正常動作
	Baseboard 1.8VSB	1.767 Volts	正常動作

図 5 センサーの詳細テーブル

6. 「システムイベントログ」アイコンをクリックします。
SEL のレコードが表示されます (図 6 を参照)。

システムイベントログのサイズ			
空き (%)			
99.7863			

詳細なシステムイベントログ			
レコード番号	イベント時間	センサー	イベントの説明
124	2004-12-29 20:26:32.0	"System Event #0x83"	"OEM System boot event"
104	2004-12-29 20:26:10.0	"System Event #0x83"	"Timestamp Clock Sync."
84	2004-12-29 20:26:10.0	"System Event #0x83"	"Timestamp Clock Sync."
64	2004-12-29 20:16:28.0	"System Event #0x83"	"OEM System boot event"
44	2004-12-29 20:16:05.0	"System Event #0x83"	"Timestamp Clock Sync."
24	2004-12-29 20:11:03.0	"System Event #0x83"	"Timestamp Clock Sync."
4	2004-12-29 03:35:07.0	"Event Logging Disabled #0x09"	"Log area reset/cleared"

SEL の更新 SEL のクリア 戻る

図 6 「詳細なシステムイベントログ」 テーブル

「詳細なシステムイベントログ」 テーブルには、次の情報が表示されます。

- イベントのレコード番号
- イベントの発生日付と時刻
- イベントが発生したセンサー
- イベントの詳細説明

イベントに関する説明の詳細については、

<http://www.intel.com/design/servers/ipmi/index.htm>にある IPMI マニュアルを参照してください。

この画面から、SEL のクリア (13 ページの「SEL のクリア」を参照) または SEL の更新 (14 ページの「SEL の表示の更新」を参照) が可能です。

SEL のクリア

管理対象ホストに関する SEL をクリアできます。SEL データは、一度クリアしてしまえば復元できません。このデータは、Sun のテクニカルサポートで必要になることがあるので、SEL をクリアする前に、動作不良の兆候などがないことを確認してください。

1. 「詳細なシステムイベントログ」 テーブルを表示します (図 6 を参照)。

2. 「SEL のクリア」ボタンをクリックします。

このボタンは「詳細なシステムイベントログ」テーブルの下にあります。「タスクの進捗状況」ダイアログが表示されます。

SEL の表示の更新

最新の SEL データを管理対象ホストから取得することができます。

1. 詳細な SEL テーブルの画面を表示します。

2. 「SEL の更新」ボタンをクリックします。

このボタンは「詳細なシステムイベントログ」テーブルの下にあります。「タスクの進捗状況」ダイアログが表示されます。

注 – 「詳細なシステムイベントログ」テーブルの「ただちに更新」ボタンをクリックすると、SEL 情報だけが更新されます。センサーデータは更新されません。

ホスト情報の表示の更新

更新機能により、管理対象ホスト上の最新のセンサーデータと SEL を取得できます。

センサーデータと SEL は、UI 上のさまざまな場所から更新できます。

- 選択ウィンドウの下部にある「ただちに更新」ボタンをクリックします。

これにより、選択した管理対象ホストに関するすべてのセンサーデータと SEL 情報が更新されます。

- 「センサー状態のサマリー」テーブルを表示するには、「データの更新」をクリックします。

このボタンはテーブルの下にあります。このボタンをクリックすると、「センサー状態のサマリー」テーブルに表示されているそれぞれのホストに関するセンサーデータと SEL が更新されます。

- センサーデータの概要テーブルを表示しているときに、「センサーの更新」ボタンをクリックします。

このボタンはテーブルの下にあります。特定のホストに関するすべてのセンサーデータと SEL 情報が更新されます。

「タスクの進捗状況」ダイアログが表示されます。

注 – ホスト情報の更新をスケジュールすることもできます。詳細については、『Sun Control Station 2.2 管理者マニュアル』のスケジュール機能についての説明を参照してください。

Health Monitoring モジュール内のセンサーデータ

Health Monitoring モジュールでは、管理対象ホスト上のコンポーネントとサービスの状態に関する詳細情報テーブルを表示できます。

LOM センサーデータについての報告を行うホストでは、「その他のシステムサービス」テーブルに次の概要データが表示されます。このデータには、センサー、System Event Log (SEL) が含まれます。

重大なシステムイベント (赤色アイコンで示されるイベント) が発生した場合に、Health Monitoring モジュールが警告を送る電子メールアドレスを指定できます。

詳細は、『Sun Control Station 2.2 Health Monitoring モジュール』 (PDF) を参照してください。

設定

「設定」画面 (図 7 を参照) で、すべての管理対象ホストに対するサービスプロセッサに共通設定を適用できます。これらの設定は、コントロールステーションで現在管理されているすべてのホスト、さらに追加した管理対象ホストに反映されます。

図 7 LOM の設定画面

変更可能なサービスプロセッサの設定には次のものがあります。

- 「グローバルパスワード」 - LOM モジュールがすべての管理対象ホストのサービスプロセッサにアクセスするパスワードを指定します。「LOM のノード設定を構成」画面で、特定の管理対象ホストのグローバルパスワードを変更できます (図 1 を参照)。

注 - ホストのローカルパスワードを指定せず、グローバルパスワードを設定しない場合は、LOM モジュールではデフォルトの (ランダム) パスワードが使用されます。

- 「確認」 - グローバルパスワードを確認します。
- 「無償の Arp」 - LOM では、Sun LX50 システム、Sun Fire V60x システム、および V65x システムの電源投入ができなくなることがあります。この問題は、Address Resolution Protocol (ARP) キャッシュの有効期限が切れ、LX50、V60x、および V65x の各システムの MAC アドレスにアクセスできなくなった場合に発生します。無償 ARP 機能により アドレス解決パケットが 2 秒ごとに送信され、ARP キャッシュの有効期限切れが防止されます。
- 「SNMP コミュニティ」 - 管理対象ホストのサービスプロセッサにアクセスするための、SNMP 対応アプリケーションで使用可能なグループ名。このグループ名は Sun Control Station ソフトウェアでは使用されません。その他の管理用アプリケーションに対応するために提供されるものです。

Intelligent Platform Management Interface (IPMI) の概要

IPMI は、温度、電圧、ファン、電源、シャーシなど、サーバーの物理的な状態やコンポーネントを監視する「インテリジェント」なハードウェアの共通インタフェースを規定します。ヘルスマニタ機能に加え、IPMI は自動警報機能、自動システムシャットダウン/リスタート機能、リモートリスタートとリモートパワー制御機能、および資源追跡機能などの、システム管理機能も提供します。

IPMI ベースサーバー管理によって、サーバーが通常動作を行っているのか、あるいは非動作状態にあるのかなど、サーバーハードウェアの健全性の状態を特定できます。IPMI を利用するサーバは、プロセッサがダウンしても継続して動作が可能な「インテリジェント」で自立的なハードウェアを使用するため、プラットフォーム管理情報や制御機能に常にアクセスできます。堅牢かつ信頼性の高い IPMI インタフェースは、電源停止、再起動、OS ロードや実行時などあらゆるシステムフェーズにおいて、シリアル/モデム、LAN、ローカル管理ソフトウェア、他社製緊急管理アドインカード、その他の IPMI 対応サーバーへのアクセスを提供します。

IPMI の詳細については、

<http://www.intel.com/design/servers/ipmi/index.htm> を参照してください。